

# 子どものSOSを「見逃さない」ために

～ 「アンケート」と「5分間ショート面接」を活用した信頼関係の構築 ～

研修用資料

## はじめに

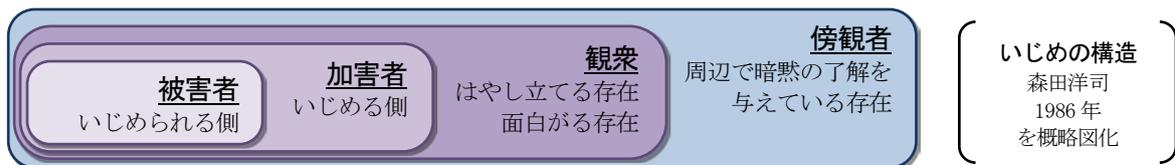
子どもから大人へと急激な成長を遂げる児童期から青年期は、子どもの誰もが、様々な不安や悩みを経験する時期です。そのような子どもの不安や悩みは、時として「いじめ」「不登校」「非行」などの問題として表出する場合があります。また、教師が子どもの様子の変化から、その子どもの不安や悩みに気付く場合もあれば、その子どもの友人や保護者から相談されて気付く場合もあります。

「いじめ」や「不登校」は、どの子どもにも起こり得ます。子どもへのインターネット接続端末の普及に伴い、子どもがインターネット上のトラブルに巻き込まれる場合や、「ネットいじめ」のように、教師や保護者が問題を初期の段階で見つけることが難しいケースも増えています。

一方、子どもの周囲に「信頼できる相談相手」がいれば、本人やその友人から、問題の発生を報告してもらえる可能性が高いというデータがあります。子どもの抱える問題が複雑かつ解決困難になる前に適切な支援をするため、まずは我々教師が子どもの「信頼できる相談相手」になりましょう。

## 1 いじめの構造

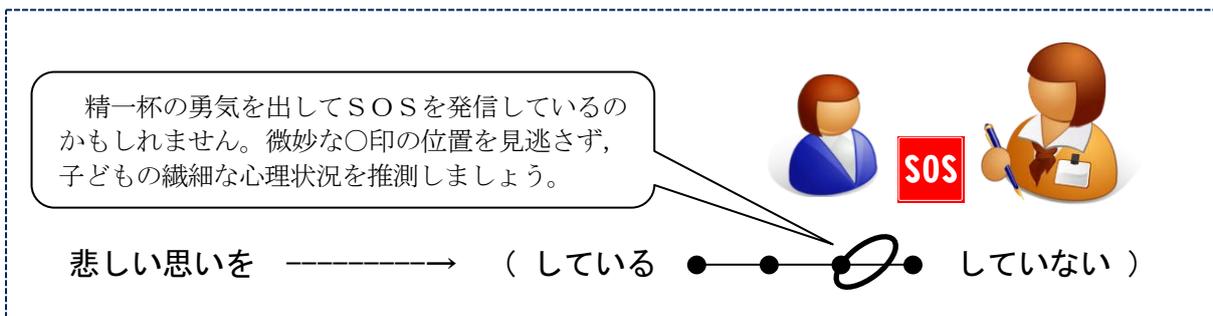
いじめは、「被害者」「加害者」という2者関係だけではなく、「観衆」としてはやし立てる存在や、その周囲で見て見ないふりをする「傍観者」の存在によって成り立っています。



子どもの9割がいじめの被害者も加害者も経験しているというデータがあります（国立教育政策研究所）。さらに、日本のいじめの多くが、同じ学級の子も同士で発生していることを考えると、学級全体に「いじめを許さない」という雰囲気醸成し、傍観者の中からいじめを抑止する仲裁者が現れるような学級経営を行うことが必要です。しかし、いじめには、傍観者が直接的な仲裁者になることが難しいという特徴もあります。実際、いじめの衝動を発生させる原因の一つとして、自身がいじめの被害者になることへの回避感情が挙げられます。

## 2 傍観者を「情報提供者」や「支援者」にするための取組

今回提案する取組のねらいは、児童生徒が「困ったときには相談したい」と感じるような教師と児童生徒との信頼関係を築くことにあります。傍観者を情報提供者や支援者にするために、特定の学級の実施ではなく学年や学校組織として取り組み、「いじめを許さない」「困ったときには相談する」という雰囲気を学校全体に醸成しましょう。



長野県総合教育センター

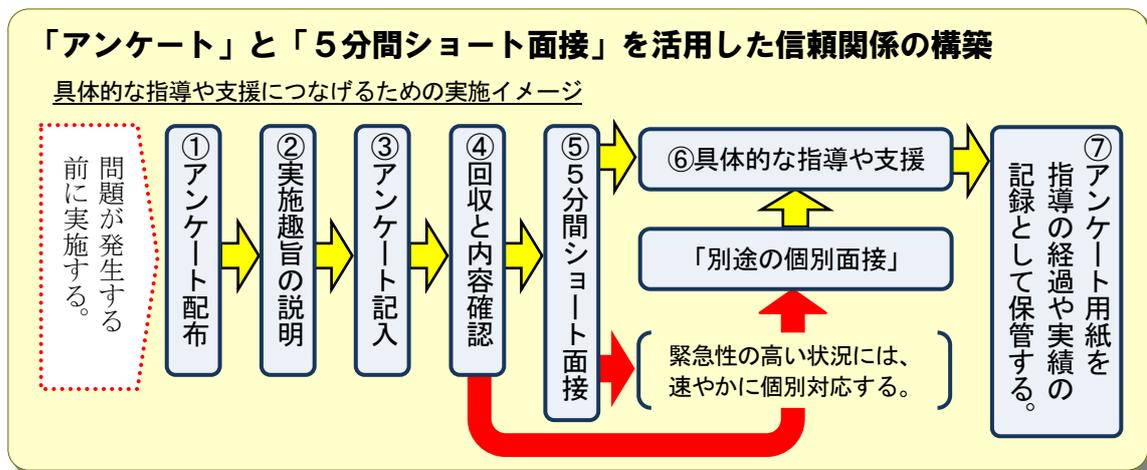
### 3 「アンケート」と「5分間ショート面接」を活用した信頼関係の構築

#### (1) ねらい

この取組のねらいは、児童生徒全員への「アンケート」と「5分間ショート面接」の実施を通して、児童生徒が「困ったときには相談したい」と感じるような教師と児童生徒との信頼関係を築くことにあります。そのため、以下のことを念頭に取り組みます。

- ・児童生徒全員に、困ったときや「おやっ？」と思ったときの情報提供を呼び掛けます。
- ・情報を提供してくれた児童生徒の秘密と安全を守ります。
- ・緊急性の高い状況については素早く対応します。
- ・児童生徒の相談窓口を複数確保するための工夫をします。
- ・児童生徒や教師に負担を掛けない工夫をします。
- ・実施したアンケート用紙を、指導の「経過」や「実績」の記録として保管します。

#### (2) 実施方法の概要



①児童生徒にアンケート用紙と封筒を配布します（別紙「学校生活アンケート」参照）。

②実施の趣旨を丁寧に説明します。

- ・安心安全で快適な学校生活をつくるためには、全員の協力が必要です。
- ・情報を教えてくれた人が誰かということは絶対に秘密にします。
- ・アンケート用紙の回収後に「5分間ショート面接」（時間厳守）を全員に実施します。

③アンケート用紙を自宅で記入させ、封筒に入れて提出させます。

④アンケート用紙の回収後すぐに、全てのアンケート用紙の内容を確認します。

- ・緊急性の高い記述がある場合には、速やかに「別途の個別面接」を実施します。
- ・「別途の個別面接」は、他の児童生徒に気付かれないように配慮し、速やかに実施します。

⑤5分間ショート面接を実施します。

- ・1人あたり5分間の面接（時間厳守）を1日3名ずつ実施します。

1人5分の面接	×	1日3名	=	1日15分	15分程度の実施であれば児童生徒も教師も負担が少ない。
---------	---	------	---	-------	-----------------------------

- ・緊急性の高い情報、不安、悩みに関する相談があった場合には、「別途の個別面接」の約束をし、「5分間ショート面接」は時間厳守で終了します（「別途の個別面接」で速やかに対応）。
- ・担任が全て実施すると決め付けるのではなく、副担任、生徒指導係、教育相談係等、実情に合わせて面接担当者を工夫します（面接を複数の教師で分担すれば、短時間で全員の面接を終了することができます）。
- ・面接担当者を児童生徒に決めさせる等、児童生徒に相談窓口を複数確保させるための工夫をしましょう。



(1) 演習 「うれしかった一言」の共有を通して、教師の言葉かけについて振り返りましょう。

- ・ 2人1組になります。
- ・ AがBに、自分が学生時代に先生から言われて「うれしかった一言」と、そのときの状況を伝えましょう。Bはメモを取りながら傾聴しましょう。(30秒)
- ・ BがAに、「〇〇〇で□□□だったから、うれしかったのですね」と相手が感情を表現した部分について、相手の感情表現を応援するような言葉を伝え返しましょう。(30秒)
- ・ AとBの役割を交代しましょう。
- ・ 演習が終わったら、どの場面でどんなことを感じたか情報交換をしましょう。(30秒ずつ)
- ・ お互いの拍手で演習を終わりにしましょう。

- ・ 何年(何十年)も前に先生から言われた言葉なのに、今でも覚えている言葉です。
- ・ 何気ない一言が子どもの心を救います。

(2) 演習 「かなしかった一言」の共有を通して、教師の言葉かけについて振り返りましょう。

- ・ 上記(1)の要領で、「かなしかった一言」をテーマに演習をしましょう。

- ・ 何年(何十年)も前に先生から言われた言葉なのに、今でも覚えている言葉です。
- ・ 何気ない一言が子どもの心を傷つけます。

(3) 演習 非言語のコミュニケーション(表情)について振り返りましょう。

- ・ 2人1組になります。
- ・ Aが顔の鼻から下を隠し、Bに目や眉毛の表情だけで「喜び」「怒り」「悲しみ」「驚き」の感情を伝えてみましょう。(1分間)
- ・ AとBの役割を交代しましょう。(1分間)
- ・ 最後に、「忙しい」ときの表情が、実は「怒り」の表情に似ていることを確認しましょう。



- ・ 児童生徒が「困ったときには相談したい」と感じるような教師と児童生徒との信頼関係を築くためには、対応する際の教師の表情も重要です。

## 5 研修の振り返り

### 研修の振り返り(チェックリスト)

研修の成果を組織で共有するために活用してください。

各自の振り返り → 演習した2人1組で共有 → 研修の参加者全体で共有

#### 児童生徒を理解しようとする姿勢

- 生徒指導上の問題、いじめ、不登校を指導や支援のチャンスと考えたいと思った。
- 子どもの様子の変化を丁寧に観察しようと思った。

#### 子どもとの信頼関係の構築を大切にしようとする姿勢

- 子どもが「相談しやすい」と感じるような関係や雰囲気をつくりたいと思った。
- 子どもとの日常のコミュニケーションを大切にしようと思った。
- 何気ない一言や日常の声掛けを大切にしたいと思った。

#### カウンセリングマインドを大切にしようとする姿勢

- 子どもの気持ちに寄り添うコミュニケーションを心掛けたいと思った。
- アンケート調査の回答を問診票のように活用し、丁寧に対応しようと思った。

#### 組織として取り組もうという雰囲気を高めようとする姿勢

- 子どもからの意図的な情報収集と、職員間の情報共有が大切だと感じた。
- 特定の学級や学年ではなく、学校組織として取り組むことが大切だと感じた。

上記以外の新たな発見(具体的に記述してください。)

子どものSOSを「見逃さない」ために、教師と児童生徒との信頼関係を築きましょう!